

あなたならどうする!?

わが子のムカツク

言葉と態度



子どもの成長とともに微妙に変化していく親子関係。いつの間にわが子はこんな減らず口をたたくようになってしまったのでしょうか？ そんなとき親はどう対応すべきなのか、Part1に引き続き、川合先生と伊藤先生からアドバイスをいただきました！

取材・文／長島佳子 イラスト／えのきのこ

家族はケンカしてもいい
本音はぶつけたほうがいい

進路という子どもの人生の選択を迫られることは、親子共に不安がともなうもの。不安感からつい親は口うるさくなり、それに対して子どもは親をムカつかせる言葉や態度を示すことが多々あります。

「お互いに本音をぶつけあえるのは家族だからこそ。ケンカをしても関係が修復できるとわかっているから、子どもも親にはトゲのあることを言えるのです」と伊藤先生。

人間だからカッとなるのは仕方ないことですが、親子ゲンカを收拾したり、できれば回避するにはどうすべきでしょうか？

「相手のことを指摘する『YOUメッセージ』では事態は収まりません。『私はこちら思う』という『Iメッセージ』で伝えたいことで、『あなたはどうか思う？』という会話にもつていくとケンカにならずに済むかもしれません」（川合先生）。

親が不安を先回りしたり
抱え込みすぎないように

本来ムカつくほどのことでなくても、親が心配している気持ちを子どもが理解していない事態に腹が立つてしまうこともあります。

「経済的なことも含め、大人は子どもよりも現実が見えているので、親が先回りして進路選択に邁進してしまうことが心配です」（川合先生）。

「親だけでは何とかならないときに、親族や、学校や塾の先生、親同士など、身近な人の力を借りる手もあります。

同じ言葉でも言われる相手によって受け取り方は変わるものなので、私たち教員など使えるものは使ってほしいですね。ムカついたときに子どもを何とかしようと考えよりも、親御さんが発散できる人間関係をもっているかが大事だと思います」（伊藤先生）。

子どもとケンカできるのもあと数年。ムカつきつつも楽しむ気構えも親には必要かもしれません。



Aさん(45歳・東京都在住 専業主婦)が、
私立高校1年生の息子に「ムカついた一言」

「お母さんに
このテストでできるの？」

①言葉が出た状況
テストの成績が悪くて...
テストの成績が悪かったので「こんなことでどうするの？」と怒ったときに言われました。高校に入ってから部活が忙しくて勉強時間が減っているのが気になって言っているのに。高校受験が終わって燃え尽きたのか、これからまだ大学受験も控えているのに全然勉強しなくて困っています。



先生の分析
川合先生「成績が悪いことを指摘されてこう返すのは健全な対抗心です。事実が一番わかっているのは本人なので、客観的事実を指摘されると反抗心を煽るだけなんですよ」
伊藤先生「やっど高校受験が終わって、勉強のほかに部活や仲間作りが大事な時期で、それを頑張っているのに成績のことだけを指摘されてお子さんがムカつくのは仕方ないことですね」

②ムカついたポイント
**親に対して
なぜ上から目線？**
親に向かってなぜ上から目線なのか。息子が、自分と親が対等だと勘違いしていることに腹が立つし、自分が原因で叱られたことに対して、屁理屈で形勢を逆転しようとしている態度が気に入りません！



先生の分析
伊藤先生「息子さんはお母さんを怒らせようとしてこの言葉を選んでいて、お母さんが逆ギレしたことで目的が達成されたわけです(笑)。息子さんにとっては期待どおりの反応ですね」
川合先生「あとは子どもの土俵で勝負しなければいけません。1度キレたあとは冷静になって『お母さんは残念だ』という気持ちを伝えて、子どものやる気を起こさせる方向に行きたかったですね」

③親の対応
思わず逆ギレ
「今の私にはできない！あなたは現役学生なんだから勉強しないでどうする！」と逆ギレしました。すると「できないくせに」と言われて逆ギレの応酬。最後のとどめは「これ以上成績が下がったら、学校の三者面談にお父さんに行ってもらうよ」というひとこと。日ごろから父親の役割として「おれが出ていく事態になったら最後だぞ。覚悟しておけ」と言ってもらっていて、息子もそれはイヤなので黙ります。



先生の分析
伊藤先生「お父さんのフォローはすばらしいです。プラスαで怒り役に徹している奥さまをねぎらう言葉があったら満点です。父母で役割分担ができていいことだと思います」
川合先生「お父さんが最終兵器になっているのはいいことですが、お父さんが本当に出る幕になって息子さんが力ではか勝てないと思ったら危険です。その前に家族で会話をもつことです」

④対応に対する自己分析
ほんとうは褒めてあげたいけど
主人から「男の子は母親に褒めてもらいたいものだ」と言われ、いい点数をとってきたときは「すごいじゃない！」と褒めていますが、バカにされて自分がギレた状態では冷静にはなれません。

類似ケース集

「お母さんはいした大学を出ていないから説得力がない」
(高校2年の娘のセリフ)

「大学に行かなかった人にはこの大変さがわからない」
(高校3年の息子のセリフ)

数学についてわからないところを聞かれて答えられなかったときに、「お母さんは頼りにならない」と言われた。
(高校2年の娘のセリフ)

まとめてアドバイス
親の弱点をわかっていてこれらの言葉を言う子どもたちは、親を怒らせようとしている態度が明らかです。親を対等だと思っているわけではなく、自分がうまくいっていないときに何かの材料を引っ張り出して親と対抗しようとしているだけです。
そこで子どもと同じ土俵に降りて戦ってしまっただけ泥仕合になるだけ。怒らせようとしているなら一旦は怒って見せて子どもの目的を果たさせてあげるのもいいですが、親としての勝負は言い負かすことではなく、子どもにやる気を起こさせたら勝ちなのです。
そのためにはプライドを傷つけられ「瞬失」した冷静さを取り戻さなければいけません。「20秒の寄り道」と呼んでいるのですが、頭に血が上ったら20秒くらい落ち着く時間をもつてから、次の言葉を選ぶようにしてみてください。

(川合先生)



Bさん(47歳・さいたま市在住 会社員)が、
私立高校2年生の息子に「ムカついた一言」

「やることはやっています。でも大学に行くつもりはない」



①言葉が出た状況

テストの成績が悪くて…

ほぼ全員が上位大学に進学する進学校に通う息子は、男の子のわりにはおしゃべりが好きで普段から親子でよく会話をしています。日常的な会話のなかで、模擬試験があったときに成績がよくなかったので「ちゃんと勉強しているの?」と尋ねたときに出てきた言葉です。

CHECK POINT

先生の分析

川合先生「進学校に通っていることでお母さんは期待しているのだと思いますが、賢いお子さんは本人に任せるしかありません。他愛もないウンには付き合いません」

伊藤先生「普段会話が多いということはいいお子さんなのでしょうね。でも親の目論見どおりにいかないということを示したいだけの、単なるプチ反抗期だと思いますよ」

②ムカついたポイント

明らかにウソ!

その模擬試験には過去の問題集があった、それをきちんとやっておけばできるレベルのものなのに、その問題集をまったくやらないことがわかる成績でした。明らかにその場しのぎのウソをついていることにも腹が立ちました、勉強していないこと自体にも腹が立ちました。

③親の対応

理詰めでお説教

「やってる」と言いながら、テスト対策や予習・復習の仕方を突き詰めていくと全然やっていないことがわかりました。「やっているつもりとやっているという事実は違うこと。それに大学に行かなくて後悔することはあっても、行って後悔することは少ない」と言ったら息子は黙っていました。

CHECK POINT

先生の分析

川合先生「お母さんは大変論理的に説得していて、お子さんは黙って聞いているけれど全然納得していません。でもこれがこの親子のいいバランスなのだと思います」

伊藤先生「納得してなくてもきっと仏頂面ではなく、まじめに聞いている態度はとっていると思います。黙って聞いているのは親を立てている感じがしていると思いますね」

CHECK POINT

先生の分析

川合先生「ご両親と違う路線を目指そうとするのは小さな自己主張だと思います。でも彼はきっと大学に行きますね。まわりのお友だちにも刺激されると思いますし、進学校では3年生から急に頑張って上位校に入る生徒は大勢いますから」

伊藤先生「私も大学に行くと思います。大学に行って声優になる道もありますよね。親とよい関係性にありながら、親の期待とは違う自立心を伝えているところが好感をもてますね」

④対応に対する自己分析

夢を否定するのは可哀相だけれど…

まわりのお友達はもう受験勉強態勢なのに、息子は声優になりたいから大学に行かなくていいと。一握りの売れている声優のことしか調べていないくせに。夢を潰すことは心が痛むけれど、誰でもなれる職業ではないので、親としてはもっと現実を見て、広い選択肢で世界を見てほしいからもっと勉強してほしいです。

類似ケース集

「特にやりたい勉強がないんだつたら大学に行く意味がないから就職すれば?」と言ったところ、「大学行くとお金がかかるから、就職してほしいんだろ?」と言われた。
(高校1年の息子のセリフ)

「ちゃんと計画立てて勉強しているから口出ししないで」
(高校2年の娘のセリフ)

親の苦労も知らないで、いくらでもお金が出るような気持ちになっているのがムカつく。
(高校3年の息子の態度)

「受験で苦しいばかりの気持ちなんかわからない!」
(高校3年の息子のセリフ)

まとめてアドバイス

売り言葉に買い言葉になりやすいのが親子の会話です。親が思ってもみない方向から口答えされれば親も当然ムカツてきます。でもケンカもコミュニケーションのうち。学校の担任と生徒がケンカをしようとしりこりが残ることがありますが、残らないのが家族です。だからこそお互いにマイナスの感情も吐き出せるのです。言いたいことがあるのに言わずに悶々とした状態が続くことのほうが不健全です。双方のストレスになりますから、お互いを非難し合うのではなく、自分はどう思っているのかをぶつけ合う場があるのはいいことです。

(伊藤先生)

他責・甘え編

Cさん(46歳・千葉県在住 パート勤務)が、
私立高校2年生の娘に「ムカついた言葉」

「勉強は自分からやることじゃ、人に言われてやることじゃない」



① 言葉が出た状況

勉強しないでパソコンばかり

パソコンが好きで勉強もせずずっとやっているの、「いつまで遊んでいるの、さっさと勉強しなさい」と言ったら、「今やろうとしてたところなのに、そう言われるとやる気がなくなった」と返されたので「言われる前に行動すべきでしょ?」と言ったときに返された言葉です。

CHECK POINT

先生の分析

川合先生「お嬢さんが言っていることは屁理屈ではなく真実なんです。今やろうとしていたときに「やれ」と言われると一番やる気をなくするのは大人も一緒ではないですか?」
伊藤先生「正論で凶星なことを、だからしている子ども自身から言われるから「あなたに言われたくない」と感じてムカついてしまうのでしょね」

② ムカついたポイント

どこからそんな屁理屈が...

あまりの屁理屈ぶりに腹が立つし、「自分から勉強すること」はこっちのセリフだと思いました。また、私が買い与えたセンター試験の参考書を半年も放置していたことを指摘したら「本が分厚いから読みたい」とか、塾に行けという「それで成績が上がると思うなんて甘い」、「何点取ってもどうせ文句言うんでしょ?」など、常に人のせいにしてたりあ言えばこう言うことが腹立たいです。

③ 親の対応

言葉ではかなわないので

言葉で返すとあ言えばこう言うの繰り返しで、言ったらやる気がなくなると言うのならこっちが言うのを我慢することにしました。パソコンをいつまでもやめないときは言葉ではなく、これ見よがしに時計を見る仕草をすると、空気を察知してパソコンを片付けるようになりました。

CHECK POINT

④ 対応に対する自己分析

親は常に上を期待してしまう

言葉では逆効果だとわかって、口にするのを我慢し始めてからは、自分も学習してきたと思います。でも、娘が実力より低めの大学と学部で志望をすでに絞ってしまっていて、親としてはもっと上を目指してほしいと期待をして勉強しろと言ってしまう。

先生の分析

川合先生「親からすると目標が低く見えてしまって、もっと上をと期待する気持ちもわかりますが、子どもの人生は親のものではなく別人格であることを、親が認識するべきですね」
伊藤先生「親から期待されることはうれしい部分もあるので必要なことでもあるのですが、参考書を親が買うのはやりすぎで逆効果です。好きな大学に行ったあとに視野が広がるかもしれないので、あまり心配なさなくても大丈夫だと思います」

類似ケース集

大学はお金がかかる、という話をしたら「土日働か、正社員になつてよ」
(高校1年の息子のセリフ)

「文系に行くのに数学は関係ないから、数学の時間は寝てるか、別の科目をやつて。みんなそうだよ」
(高校2年の娘のセリフ)

きちんとした目的もなく、「とりあえず大学行く」
(高校2年の息子のセリフ)

もし美大に進むと学費が1.5倍に膨らんでしまう状況を伝えたと、「弟が進学しなければ自分の学費に回してもらえないか」と言い放った。
(高校3年の娘のセリフ)

まとめてアドバイス

いずれも子どもが本気で言っている場合は親がムカつくのも当然です。こうした甘えたセリフを言ったときは、「自分で働いてみる」とか、「みんなってこの誰なのか?」、「とりあえずなら大学に行くな」、「弟の面倒を一生おまえが見られるのか」など、きちんと叱る必要がありますね。
一方、子どもが本気ではなくその場しのぎで口に出した言葉なら、真剣にとりあうまでもないことなので、ムカつくだけ損です。とりあわずに適当になしてやりましょう。
(川合先生)



Dさん(47歳・横浜市在住 専業主婦)が、
私立高校1年生の娘に「ムカついた一言」

「どうせ私なんか、
国公立は無理に決まってる」

それでいいのかわが子よ...



①言葉が出た状況
高校最初の通知表をもらってきて
家庭の経済的理由で、大学は国公立に入ってもらいたいという親の希望を伝えているのに、高校に入って最初の通知表をもらってきたときに自分の成績を見て言った言葉です。

③親の対応
「私立だったら奨学金」
「今からあきらめてどうするの？もし私立になったら学費を払ってあげられないから奨学金になるよ」と言うと、奨学金は将来、自分で返さなければいけないものということも知らないくせに「それでもいい」と言っていました。



先生の分析
伊藤先生「一見無気力に見えますが、高校のときに自分で志望校を探したお子さんなので、本来進路を自分で選びたいタイプなのだと思います。お金という尺度だけで選択肢を狭められたことへの反発かもしれませんね」
川合先生「お母さんが焦りすぎている気がします。『行きたい大学があるの?』とまずはお子さんの希望を聞いてあげてほしいですね」

②ムカついたポイント
なぜ今からあきらめる?
まだ1年生でこれからなのに、もうあきらめている態度に腹が立ちました。高校受験のとき、娘はどうしても入りたい学校を見つけて必死に勉強し、かなり成績を上げられた経験があるのに、それと同じ努力をしようとしません。その一方で、「自分はやるときはやる」とひそかな自信はあって、それは今ではないと思っている様子。大学受験は1年生からの成績も重要と学校からも言われているのに、のほほんとしていて心配です。

④対応に対する自己分析
先回りして早めに対処してあげたくなる
残念なことに第一志望の高校に入らず、高校受験が終わって間もないため、燃え尽きていてまだ大学受験に思いが及んでいないのだと思います。それでも昔と違って、大学も受験方法も選択肢が広すぎて、早くから情報収集が必要なことを学校にも言われると親は心配になって、つい先回りして空回りしているのかもしれない。



先生の分析
伊藤先生「子ども思いのすばらしいお母さんですね。経済的なことは現実なので最終的には進路選択の要因になりますが、お子さんの希望を聞くところから始めて、『それだと学費が足りないかもしれない]と妥協点を探る方向で会話を進めてはどうでしょうか?」
川合先生「私たち学校側も考えさせられますね。生徒の幸せのために早いうちからムチを入れているつもりが、現実が見えている親にムチが入ってしまっただけ子どもには響いていないのですね。学校も親も、子どもとはいいにくいコミュニケーションする必要がありますね」

類似ケース集

「将来は、自宅警備員になる。(ニートになりた)」
「高校3年の息子のセリフ」
「どうせ私は...」が口癖の娘(大学1年の娘が高校生のときと同じような態度)
「部活で忙しいから勉強する時間ないし、進路のことなんかわかんないよ」
「高校2年の息子のセリフ」
「家ではいつもだらだらして夜更かしばかり。それを指摘すると「わかつてる」と言うけど何も変わらない。」
(高校1年の娘の態度)
まとめてアドバイス
やる気がなかったり、世間知らずな態度のままのお子さんには、それを指摘して非難するのではなく、「ニートなんてお母さんは反対」、「お母さんは心配よ」など親御さんの気持ちを伝えましょう。自信をなくして無気力になっているお子さんには、いいところを探して褒めてあげたいですね。認められたい、褒められたい、役に立ちたいという、人かもつ「3つのたい」欲求を満たしてあげることがです。
(川合先生)
「こういう言葉を使ったときは、無視したりせず、ケンカになっても親の本音をぶつけたほうがいいですね。ケンカをしても家族なら復元できますから。」
(伊藤先生)

親子の関係別 コミュニケーションの アドバイス

人間は十人十色。その組合せである親子関係は家庭によって複雑に異なってきます。親子の関係性別にどんなコミュニケーションを心がけるべきかポイントをうかがいました。



親VS同性の子ども

「子どもが思春期の中学・高校時代は、特に父親と息子は反発して会話がなくなります。これは当たり前で健全な成長過程です。最近のお父さんは子育てにも熱心ですが、その場合、二人目の母親にならないように、お母さんとの役割をはっきりさせましょう。大事なのは子どものプライベートな空間には立ち入らず距離感を保つことと、過支配にならないこと。自分の夢を子どもに託しすぎたり、ビジネスの教育法を家庭にもち込むことは絶対にやめましょう」(川合先生)

友達親子

「友達のように仲がよい母親と娘は珍しくないことで、お互いにその状態を楽しんでいれば理想の関係です。ただし、もしも娘がお母さんに合わせている場合は要注意。いい子であるほどお母さんの期待にこたえようと、無理をしているかもしれません。子どもは成長とともに自立して、親とは違うものを見方を身につけても当然のことなのに、進路選択の際など親の考えと志望が違った場合に逸脱や裏切りととらえられると、子どもが不要な罪悪感をもつことがあります。娘は自分と違う人格であることを認めましょう」(伊藤先生)



日ごろの 会話少なめ親子

「もともと会話が少なくても、進路に際しては親子の会話は必要です。そんなとき急に『どうなっているんだ』と切り出しても気まずくなるだけです。待っていて子どもから話してくれることは期待できないので、親から働きかけが必要。この本など、何かきっかけを作って『どう思う?』など話しかけてみましょう。あいさつだけでもいいと思います」(川合先生)
「話しかけても最初は反応がないと思いますが、子どもは聞いてないわけではないので、くじけず続けてください」(伊藤先生)



親VS異性の子ども

「父親に対して娘は思春期のある時期、どうしてもウザイと感じることがあるものです。娘に無視されてしまうこともあるでしょうが、一生続くわけではないので耐えてください(笑)」(伊藤先生)
「母親にとって息子は娘以上にかわいい存在のようで、進路についても心配のあまり先回りするなど過保護になりがちです。息子さんの自立の妨げになりかねません。お母さん自身が子ども以外に興味をもてる趣味や仕事をもつなどして、親が引っ張らなくても自分の足で歩けるように、適度な距離感が重要です」(川合先生)



子どもが 異星人に見える親子

「今は時代の変化のスピードが速いので、ファッションや発想が突き抜けてしまっている子どもに対して、親が無理に理解しようとする必要はないでしょう。親がよしと思っていない気持ちは伝えておいたほうがいいと思います(笑)」(伊藤先生)
「意外と子どもたちも、今だけという期間限定とわかって突飛なことを楽しんでいるものです。時代ごとに若者の世界はありますよね。それでも気になったら『あなたの住んでいる星はどうなってるの?』と聞いてみてはいかがでしょう?」(川合先生)

親の能力を 超えている子ども

「鶯が鷹を生んでしまったのかというような優秀なお子さんをもった場合、親は困惑しますが、無理や背伸びをせずにお子さんと付き合っていくことが大事です」(川合先生)
「進路のことは子ども自身に任せて大丈夫だと思いますが、もし相談されてわからなかったら正直にそのことを伝えて、学校の先生など適切な人に相談するようにアドバイスしてあげましょう。その際、他人に丸投げしたと感じさせないように、一緒に考えようという気持ちを伝えたいですね」(伊藤先生)

